

平成20年度 児童関連サービス調査研究等事業報告書

家庭的保育者（保育ママ）の研修についての調査研究
（抄）

主任研究者：網野 武博
東京家政大学 教授

平成21年3月

財団法人 こども未来財団

家庭的保育 基礎研修科目	家庭的保育の導入	
1. 家庭的保育の概要	60分	講義
<p>講義の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. わが国における家庭的保育の歴史的経緯や位置づけを把握する。 2. 家庭的保育の特徴を理解し、保育所保育との共通点、相違点を把握する。 3. あらかじめ家庭的保育の意義及びリスクについて把握し、本基礎研修の講義内容をそれらと結びつけて受講できるようにする。 		
<p>シラバス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭的保育の歴史的経緯 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育所の推移 (2) 家庭的保育の創設 (3) 今後の家庭的保育 2. 家庭的保育の特徴 <ol style="list-style-type: none"> (1) 家庭的保育の定義 (2) 家庭的保育の特徴 (3) 家庭的保育の理念 (4) 連携保育所の役割 <ol style="list-style-type: none"> 1) 集団保育の経験 2) 情報提供・相談支援 3) 代替保育 4) 健康診断の実施 (5) 家庭的保育の意義 <ol style="list-style-type: none"> 1) 家庭的環境での保育 2) 小集団を対象とするきめ細やかな保育 3) 同じ保育者が対応 4) 子どもの生活リズムの尊重 5) 家庭生活から集団保育に移行する間のきょうだい体験 6) 保護者への緊密な子育て支援 7) 地域の子育て支援 3. 家庭的保育のリスクを回避するための課題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 開かれた保育 (2) 保育補助者と共に行う複数保育 (3) さまざまな地域資源の活用 (4) 自己研鑽と健康管理 (5) 保育ネットワークの活用 		

家庭的保育 基礎研修科目	家庭的保育の基礎	
2. 乳幼児の発達と心理	90分	講義
<p>講義の目的</p> <p>1. 0歳から3歳くらいまでの乳幼児期の発達のポイントを理解するとともに、発達に応じた遊びやその安全性について考える。</p> <p>2. 子どもの発達を支える家庭的保育者の役割について理解を深める。</p>		
<p>シラバス</p> <p>1. 発達とは</p> <p>2. 発達時期の区分と特徴</p> <p>3. ことばとコミュニケーション</p> <p>(1) 泣き</p> <p>(2) 喃語</p> <p>(3) 手さし・指さしから共同注意、言葉の発達へ</p> <p>(4) 「わかる」から「いえる」へ</p> <p>(5) 二語文の登場</p> <p>(6) ことばを豊かに育てるために</p> <p>4. 自分と他者</p> <p>(1) アタッチメント（愛着）</p> <p>(2) 自分を知る</p> <p>(3) 後追いと人見知り</p> <p>(4) 友だちとのかかわり</p> <p>(5) 保護者から離れて遊ぶ</p> <p>(6) 2つの基本的信頼感</p> <p>(7) テリブル・ツー（手がかかる2歳児）</p> <p>5. 手の働きと探索</p> <p>(1) 手の使い方と動き</p> <p>(2) 手先の動きが器用になる</p> <p>(3) さかんな探索活動ー実体験から学ぶー</p> <p>(4) 遊びの発達</p> <p>6. 移動する力</p> <p>(1) 移動運動</p> <p>1) 発達の概要</p> <p>2) かかわり方のポイント</p> <p>3) 事故への注意</p> <p>7. こころと行動の発達を支える家庭的保育者の役割</p> <p>(1) 乳幼児期の発達を支える家庭的保育者の役割</p> <p>(2) 乳児期の遊びを大切に</p> <p>(3) 日常生活が遊びに</p>		

家庭的保育 基礎研修科目	家庭的保育の基礎	
3. 食事と栄養	60分	講義
<p>講義の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 離乳の進め方に関する最近の動向を理解する。 2. 幼児期の昼食作りに役立つ栄養バランスのポイント、食品衛生の基礎知識を理解する。 3. 食物アレルギーについての理解を深める。 4. 家庭的保育者がおさえる食育のポイントを理解する。 		
<p>シラバス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 離乳の進め方に関する最近の動向 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「授乳・離乳の支援ガイド」について <ol style="list-style-type: none"> 1) 策定の経緯とねらい 2) 「改訂 離乳の基本」からの主な変更点 (2) 「授乳・離乳の支援ガイド」を活用した育児支援 2. 栄養バランスを考えた幼児期の食事作りのポイント <ol style="list-style-type: none"> (1) 幼児期の栄養・食生活の特性 (2) 食事摂取基準と食品構成 (3) 幼児期の食事作りのポイント <ol style="list-style-type: none"> 1) 必要エネルギーを確保すること 2) 料理の組み合わせを考慮すること 3) 調理法の異なるおかずを組み合わせること 4) 彩（いろど）り豊かにすること 5) 材料は食べやすい大きさに切ること (4) 昼食の弁当作りの留意点 <ol style="list-style-type: none"> 1) 必要エネルギーに合った大きさの弁当箱を用意すること 2) 料理の組み合わせを考慮すること 3) 動かないようにしっかり詰めること 4) 食中毒予防に努めること 3. 食物アレルギーについて 4. 家庭的保育者がおさえる食育のポイント <ol style="list-style-type: none"> (1) 食育の目標と内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) おなかがすくリズムがもてる子ども 2) 食べたいもの、好きなものが増える子ども 3) 一緒に食べたい人がいる子ども 4) 食事作り、準備にかかわる子ども 5) 食べものを話題にする子ども (2) 手づかみ食べについて (3) 乳幼児期の食育のめざすもの <ol style="list-style-type: none"> 1) 乳幼児期は「楽しく食べる子ども」をめざす食育を 2) 食育は普段の生活を丁寧なことから (4) 家庭的保育における食育の実例 		

家庭的保育 基礎研修科目	家庭的保育の基礎	
4. 小児保健 I ー家庭的保育における健康管理と衛生ー	60分	講義
講義の目的 1. 家庭的保育を行う上で必要となる健康管理のポイントや疾病の予防と感染防止への対応、保育中の発症への対応などの基礎知識について学ぶ。 2. 現場に生かせる、より具体的な対応を学ぶ。		
シラバス 1. 乳幼児の健康観察のポイント (1) 体温と発熱について (2) 睡眠中の観察と睡眠観察表の活用 (3) 乳幼児突然死症候群の予防 注意しなければならない点 2. 発育と発達について (1) 健康診断 (2) 医師や地域の保健機関との連携について 3. 衛生管理・消毒について (1) 下痢・嘔吐発症時の消毒 (2) おもちゃの消毒 4. 薬の預かりについて (1) 薬の預かり方、薬連絡票について (2) 外用薬（おむつかぶれ、点眼薬、座薬） (3) 抗アレルギー剤（吸入薬・インターールなど）		

家庭的保育 基礎研修科目	家庭的保育の基礎	
5. 小児保健Ⅱ ー子どもに多い病気と事故、その対応ー	60分	講義
<p>講義の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもに多い症状・病気を知りその対応を理解する。 2. 小児に多い事故を理解し、その予防と対応を実践できる。 3. 異物除去法、心肺蘇生法を理解し、緊急時に実践できる。 		
<p>シラバス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもに多い症状とその対応 <ol style="list-style-type: none"> (1) 発熱 (2) けいれん (3) 腹痛・嘔吐・下痢 <ol style="list-style-type: none"> 1) 腹痛、あるいは腹痛が考えられる場合 2) 嘔吐を認める場合 3) 下痢を認める場合 (4) 脱水 2. 子どもに多い病気とその対応 <ol style="list-style-type: none"> (1) 主な感染症に関して <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染の基本 2) 流行性疾患（予防接種のあるもの） 3) 予防接種のない感染症 4) 登園（保育）許可について 5) 感染予防 (2) アレルギーについて <ol style="list-style-type: none"> 1) アナフィラキシー 2) 食物アレルギー 3) 気管支喘息 3. 事故予防と対応 <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもに多い事故 (2) 事故予防と対応 <ol style="list-style-type: none"> 1) 転倒、転落 2) 誤飲、誤嚥 3) やけど 4) 溺水 (3) 異物除去法 (4) まとめ 		

家庭的保育 基礎研修科目	家庭的保育の実際			
6. 家庭的保育の保育内容	120分	講義・演習		
<p>講義の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭的保育における基本的な1日の流れや保育内容を学ぶ。 2. 少人数の異年齢児を保育する際の方法、工夫、留意事項などを学ぶ。 3. 新しく子どもを受け入れる際の留意点を学ぶ。 4. 保育補助者とともにを行う保育の利点を学ぶ。 				
<p>シラバス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭的保育における保育内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) 家庭的保育の特徴 (2) 家庭的保育の基本方針 (3) 家庭的保育の1日 2. 家庭的保育の1日の流れ <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもを迎え入れるまでの準備 (3) 自由遊び (5) 散歩・外遊び (7) 昼食 (9) 午睡 (11) おやつ (13) 帰宅の準備 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> (2) 子どもの登園・受入 (4) おやつ・水分補給 (6) 手洗い・うがい (8) 歯磨き (10) 目覚め・検温 (12) 自由遊びまたは散歩 (14) 保育終了後 </td> </tr> </table> 3. 異年齢保育 <ol style="list-style-type: none"> (1) それぞれの発達過程の特徴 (2) 異年齢保育の遊びの工夫 (3) 異年齢保育による効果 4. 新しく子どもを受け入れる際の留意点 <ol style="list-style-type: none"> (1) ならし保育の進め方 (2) 0歳児の配慮事項 (3) 1. 2歳児の配慮事項 (4) ならし保育中の在園児の保育 5. 地域の社会資源の活用 <ol style="list-style-type: none"> (1) 連携保育所の活用 (2) 地域資源の活用 6. 家庭的保育の記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 記録の種類 (2) 連絡帳の書き方 7. 保育の体制 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育補助者の役割 (2) 1人で行う保育 <p>*講義の合間に、遊び、手作りおもちゃ、グループ討議などを入れる。</p>			<ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもを迎え入れるまでの準備 (3) 自由遊び (5) 散歩・外遊び (7) 昼食 (9) 午睡 (11) おやつ (13) 帰宅の準備 	<ol style="list-style-type: none"> (2) 子どもの登園・受入 (4) おやつ・水分補給 (6) 手洗い・うがい (8) 歯磨き (10) 目覚め・検温 (12) 自由遊びまたは散歩 (14) 保育終了後
<ol style="list-style-type: none"> (1) 子どもを迎え入れるまでの準備 (3) 自由遊び (5) 散歩・外遊び (7) 昼食 (9) 午睡 (11) おやつ (13) 帰宅の準備 	<ol style="list-style-type: none"> (2) 子どもの登園・受入 (4) おやつ・水分補給 (6) 手洗い・うがい (8) 歯磨き (10) 目覚め・検温 (12) 自由遊びまたは散歩 (14) 保育終了後 			

家庭的保育 基礎研修科目	家庭的保育の実際	
7. 家庭的保育の環境整備	60分	講義
<p>講義の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育環境の整備にあたり、基本的な考え方と配慮事項を理解する。 2. 保育者の居宅であること、家族の生活の場でもあることをふまえた環境整備の必要性を理解する。 3. 家庭的保育に必要な設備・備品とその配置について、具体的事例およびチェックリストを参考に、自己点検を行えるようにする。 		
<p>シラバス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育環境を整える前に <ol style="list-style-type: none"> (1) 制度上の規定について (2) 保育に必要な環境の構成要素 (3) 保育環境に関する留意点 (4) 保育者の居宅で行う家庭的保育 2. 家庭的保育に必要な環境とは <ol style="list-style-type: none"> (1) 安全に、安心して生活できること <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの発達と事故 2) 事故を未然に防ぐための環境整備 <ol style="list-style-type: none"> ① 進入防止 ② 転倒などによる事故防止 ③ ドアへの挟まれ防止 ④ 乗り越え（転落）防止 ⑤ 物の取り出しによる事故防止、危険物取り出し防止 ⑥ 落下や家具の転倒防止 ⑦ 誤飲防止 ⑧ 溺水防止 3) 居心地のよい環境づくり (2) 日常的なケアを行う (3) 子どもの豊かな遊びを保障する (4) 効率的な空間の利用 (5) 清潔を保つ—衛生管理 (6) 保育環境を整える際に検討すべきこと 3. 環境チェックリスト 備品リスト 4. まとめ 		

家庭的保育 基礎研修	家庭的保育の実際	
8. 家庭的保育の運営・管理	60分	講義
<p>講義の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育者であると同時に、運営者でもある家庭的保育者の職務について学ぶ。 2. 情報提供の方法、受託前の利用者との面接、記録や報告の管理、個人事業主としての財務管理の方法などについて学び、安定的な運営を心がける。 		
<p>シラバス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報提供 <ol style="list-style-type: none"> (1) 情報提供の目的 (2) さまざまな情報提供 <ol style="list-style-type: none"> 1) 行政による情報提供 2) 家庭的保育者の組織による情報提供 3) 個人による情報提供 (3) 情報の種類 (4) 個人情報への配慮 2. 受託までの流れ <ol style="list-style-type: none"> (1) 問い合わせへの対応 (2) 見学の受け入れ (3) 保護者との面接 <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの状態について 2) 保育について (4) 保育を始めるにあたって 3. 家庭的保育の運営上必要な記録と報告 4. 保険の加入について <ol style="list-style-type: none"> (1) 賠償責任保険 (2) 傷害保険 5. 個人事業主としての財務管理 		

家庭的保育 基礎研修	家庭的保育の実際	
9. 安全の確保とリスクマネジメント	60分	講義
<p>講義の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育環境上起こりうる危険について理解し、事故を未然に防ぐための予防策や安全確保の留意点について学ぶ。 2. 万一事故が起こった場合の対応や報告について理解する。 		
<p>シラバス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの事故 2. 子どもの事故の予防－保育上の留意点 <ol style="list-style-type: none"> (1) 毎日の点検 <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康観察（視診） 2) 子どもの受け渡し 3) 保育室内での事故防止 4) 散歩 5) 戸外での活動 6) 不審者対応 (2) 定期的な点検 <ol style="list-style-type: none"> 1) 保育室内での事故防止 2) 散歩 3) 火事・地震 4) いざという時の応援 3. 緊急時の連絡・対策・対応 <ol style="list-style-type: none"> (1) 連絡網の準備 (2) 避難訓練の実施 (3) 災害時・事件への対策・対応 <ol style="list-style-type: none"> 1) 保育室内での事故 2) 散歩中の交通事故 3) 不審者侵入 4) 保育中の地震 5) 保育中の火事 (4) 事故後の報告 4. リスクマネジメントと賠償責任 <ol style="list-style-type: none"> (1) リスクマネジメントとは (2) 保育中の事故と法的責任 5. まとめ 		

家庭的保育 基礎研修科目	家庭的保育の実際	
10. 家庭的保育者の職業倫理と配慮事項	90分	講義・演習
<p>講義の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭的保育者としての職業倫理について考え、理解を深める。 2. 家庭的保育者の自己管理および保育者の居宅で保育する家庭的保育ならではの自分の家族や地域住民との関係づくりについて考え、学ぶ。 3. 保育所やさまざまな保育者との関係、行政との関係などについて考え、学ぶ。 		
<p>シラバス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭的保育者の職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの最善の利益の尊重 2) 子どもの発達保障 3) 保護者との協力 4) プライバシーの保護 5) チームワークと自己評価 6) 利用者の代弁 7) 地域の子育て支援 8) 専門職としての責務 2. 家庭的保育者の自己管理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 健康面について <ol style="list-style-type: none"> 1) 食事 2) 睡眠 3) 運動 4) ストレスマネジメント (2) 金銭面について (3) 研鑽面について 3. 家庭的保育者自身の家族との関係 4. 地域との関係 5. 保育所やさまざまな保育者との関係 <ol style="list-style-type: none"> (1) 連携保育所との関係 (2) さまざまな保育者との関係 6. 行政との関係 7. 家庭的保育者とは（演習） 		

家庭的保育 基礎研修科目	家庭的保育の実際	
11. 保護者への対応	90分	講義・演習
<p>講義の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭的保育は、保護者と保育者が協力して子どもの発達を支えるとともに、保護者の子育てを支援する役割を持っている。その意義を理解するとともに、それに必要な知識と技術を身につけるようにする。 2. その場合、保護者との対応において、保護者との信頼関係が大切である。その信頼関係づくりや保護者への支援が必要な際の関わり方について、重要なポイントを学び、事例検討などを通して考え、理解を深める。 		
<p>シラバス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭的保育における保護者との関わりと対応 <ol style="list-style-type: none"> (1) 保育者に求められる専門性 <ol style="list-style-type: none"> 1) 子育て支援の必要性 2) ソーシャルワーク的機能の必要性 (2) 家庭的保育における保護者への対応 <ol style="list-style-type: none"> 1) 保護者の理解と協力 2) 保護者への個別支援と対応 3) 保護者相互の協力・連携 4) 地域資源との連携・地域交流の活用 2. 家庭的保育における保護者への対応の基本 3. 子育て支援における保護者への相談・助言の原則 <ol style="list-style-type: none"> (1) 傾聴・受容・共感的理解 (2) 利用者・相談者のありのままの感情表出の促進 (3) 自らの感情のコントロール (4) 1人ひとりの個別性の尊重 (5) 非審判的態度 (6) 利用者の自己決定の尊重 (7) 秘密保持 4. 保護者への対応 事例を通して考える（演習） 		

家庭的保育 基礎研修科目	家庭的保育の実際	
12. 子ども虐待	60分	講義
<p>講義の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども虐待についての基本的事項を理解する。 2. 家庭的保育における虐待の発見、対応の基礎を理解する。 3. 家庭的保育者が虐待など不適切なかかわりをしないための配慮すべき事柄を理解する。 		
<p>シラバス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども虐待への関心の高まり 2. 子ども虐待とは <ol style="list-style-type: none"> (1) 子ども虐待のとらえ方 <ol style="list-style-type: none"> 1) 子ども虐待は人権侵害 2) 虐待とアビューズ (2) 「しつけ」と虐待 (3) 子ども虐待の種類 3. 子ども虐待の実態 <ol style="list-style-type: none"> (1) 児童相談所の虐待相談件数 <ol style="list-style-type: none"> 1) 虐待の対象となった子どもの年齢 2) 主たる虐待者 3) 相談処理 4. 虐待が及ぼす影響 <ol style="list-style-type: none"> 1) 生命へのリスク（危険性） 2) 永続的な身体的障害のリスク 3) 心理的・行動上の問題のリスク 4) 親になるときのリスク 5. 子ども虐待の発見と通告 <ol style="list-style-type: none"> (1) 虐待の発見 <ol style="list-style-type: none"> 1) 虐待の気づき 2) 虐待を疑ったときの対応 (2) 通告 <ol style="list-style-type: none"> 1) 通告義務 2) 虐待かどうか判断に迷うケース 3) 要保護児童対策地域協議会 6. 虐待を受けた子どもにみられる行動特徴 7. 子どもが家で虐待を受けたと思われたならば <ol style="list-style-type: none"> (1) 家庭的保育で出会うと思われるケース (2) 対応のポイント 8. 家庭的保育で不適切な関わりを防ぐために <ol style="list-style-type: none"> (1) 家庭的保育者にできること、しなければならないこと (2) 研修を受ける (3) もしだれかが虐待をしていたら通告する 		

家庭的保育 基礎研修	家庭的保育の実際	
13. 気になる子どもへの対応	90分	講義
<p>講義の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 0～2歳の気になる行動をどのように考え、どうかかわっていけばよいかを行動特徴の把握などとおして学ぶ。 2. 気になる子どもへの対応における保育者の役割を学ぶ。 3. 遊びをとおして、子どもの発達を促す方法を学ぶ。 		
<p>シラバス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気になる行動 2. 気になる行動をする子どもの行動特徴 <ol style="list-style-type: none"> (1) 行動特徴 (2) 子どもの心の訴え方 3. 気になる行動への対応の考え方 4. 気になる行動の原因とその対応 <ol style="list-style-type: none"> (1) 原因 (2) 障害とその対応 (3) 環境要因とその対応 5. 保育者の役割 <ol style="list-style-type: none"> (1) 発達課題達成のための援助者 (2) 行動モデルとしての保育者…親子にかかわる大人として (3) 楽しさを共有する保育者 6. 遊び —日本に伝承されてきた育児法を用いる— 		

家庭的保育 基礎研修	研修を進める上で 必要となる講義	
14. 見学実習オリエンテーション	30～60分	演習
講義の目的 1. 見学実習を行うに当たって必要な配慮事項や見学のポイントについて学ぶ。 2. 見学実習でどのようなことを学びたいか、あらかじめ考える機会とする。		
シラバス 1. 見学実習の目的 2. 見学のポイントと配慮 (1) 見学先と子どもたちへの配慮 1) 子どもたちへの配慮 2) 見学先への配慮 (2) 環境～安全で安心できる環境づくり (3) 一日の生活の流れと保育者・子どもの様子 (4) 異年齢・小集団保育を生かす遊び (5) 地域資源の利用 (6) 保護者とのかかわり (7) 複数の保育者体制、保育補助者の役割 (8) 保育者の保育観や保育方針 (9) 見学を終えて <見学実習記録> 3. 見学を引き受ける際の留意事項 (1) 事前の準備 (2) 安全確保・衛生 (3) 实际的、具体的な工夫の提示 (4) 資料の準備 (5) その他の配慮事項 (6) 気づいたことについて		

家庭的保育 基礎研修	研修を進める上で必要となる講義	
15. グループ討議	90分	演習
<p>グループ討議の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研修参加者が討議のテーマにそって話し合うための方法やマナーを学ぶ。 2. テーマについて、自分の意見を述べたり、他の参加者の意見を聞く相互作用を通じて、考えをまとめたり、問題点を整理したり、解決方法を検討する。 3. 今後学びたい内容あるいは助言者に質問したいことなどを、グループ内で話し合う。 4. テキスト中にある演習、事例の課題について、討議の方法を応用してみる。 		
<p>シラバス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 討議の目的 2. 討議の原則 3. 討議の効果 4. 討議のすすめ方 <ol style="list-style-type: none"> (1) 自己紹介 (2) 司会と記録係、全体討議での発表係を選ぶ (3) 個人の考えの明確化 (4) 個人カードの発表 (5) 問題点のグルーピング (6) 討議課題の決定 (7) 解決策の討議 (8) 記録 (9) まとめ (10) 全体討議での発表 5. グループ討議（演習） 		

